

CLUSTERPRO MC ProcessSaver 2.1 for Windows クイックリファレンス

第 2 版

2016年 3 月

日本電気株式会社

目次

1	はじめに	P.3
2	Pfile の設定パラメータ	P.4
	(1) 基本パラメータ	P.5
	(2) オプションパラメータ	P.9
3	再起動スクリプトの記述方法	P.13
4	Pcheck の起動・終了	P.14
	(1) ProcessSaver コンソール (GUI) からの起動	P.15
	(2) PcheckRunList からの起動	P.17
	(3) コマンドラインからの起動	P.18
5	運用管理	P.19
	(1) 監視の一時停止・再開コマンド	P.20
	(2) 監視状態の表示コマンド	P.21
	– 監視コマンドの一覧表示	
	– 監視ルール表示	
	– 監視状態表示	
	(3) 運用中に出力されるメッセージ	P.24
	(4) リトライオーバー時の対処	P.25
	(5) オンライン保守手順	P.26
[付録]	パラメータ設定シート	P.28

1 はじめに

本マニュアルは ProcessSaver の基本的な運用に最低限必要な設定を簡易的に記載したものです。

本マニュアルでは基本的なプロセス監視機能

【プロセス/サービス監視】 → 【消滅検知】 → 【自動再開】

を運用する際に必要となるファイルおよびパラメータの意味や設定方法をご説明いたします。

なお、詳細な設定につきましては、同梱の「ユーザーズガイド」をご覧ください。

※ 本書は、Windows 版のドキュメントです。

2 Pfile の設定パラメータ

- (1) 基本パラメータ
- (2) オプションパラメータ

※Pfile とは Pcheck.exe プロセス単位に定義される設定ファイルです。

(1)基本パラメータ

PARAM・・・Pcheck 全体の動作を規定する共通部情報

```
##### PARAM #####  
MsgCheckInterval    5                ①  
MonitorInterval     10               ②  
DumpFileName        "C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥log¥xxx.dmp" ③
```

- ① MsgCheckInterval.....内部イベントをスケジュールするタイマ値を指定します。
指定値は MonitorInterval より小さい値を設定してください。
- ② MonitorInterval.....プロセス/サービス監視を一定間隔で行う場合のタイマ値を指定します。
MsgCheckInterval の整数倍の値を設定してください。
- ③ DumpFileName.....Pcheck の内部情報を出力するファイル名を絶対パスで指定します。
ファイル名は 256 バイト以下で設定してください。
名前にスペースがあるフォルダに存在するファイルを指定する場合は、
始点と終点に "(ダブルクォーテーション) を付与してください。
複数の Pcheck を起動する場合、システムで一意の (重複しない) 名前を
設定する必要があります。

PENT...プロセス単位の管理情報を規定する個別部情報

各パラメータは
「, (カンマ)」で区切ります。

```
##### PENT #####  
##Process/ServiceName,ScriptFileName,Grace(Sec),RetryCountMax,RetryOverAction,CheckType
```

① ② ③ ④ ⑤ ⑥

または

オプション情報のみ
「; (セミコロン)」で区切ります。

```
##### PENT #####  
##Process/ServiceName,ScriptFileName,Grace(Sec),RetryCountMax,RetryOverAction,CheckType;Option
```

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦

- ① 監視対象プロセス/サービス名.....tasklist コマンドで表示されたプロセス名およびサービス名をそのまま設定してください。
プロセス名およびサービス名は、1024 バイト以下で設定してください。
プロセス名を設定した場合は、引数を設定することができます。
引数を設定する場合、プロセス名と引数の間に &| (アンパサンドとパイプ) を付与してください。

PENT・・・プロセス単位の管理情報を規定する個別部情報

- ② 再起動スクリプト名.....監視対象プロセス/サービスを起動するバッチファイルを絶対パスで設定します。
ファイル名は、絶対パスにて 256 バイト以下で設定してください。
省略時は 0 または、 - (ハイフン) を指定してください。
ファイル名には引数付のバッチファイルを指定することが可能です。引数を指定する場合は、全体で 1024 バイト以下で設定してください。
引数を指定する場合、ファイル名と引数の間に &| (アンパサンドとパイプ) を付与してください。
ファイル名に ; (セミコロン) を含んだ文字列および、&| (アンパサンドとパイプ) の並びを含んだ文字列を指定することはできません。
名前にスペースがあるフォルダに存在するファイルを指定する場合は、始点と終点に " (ダブルクォーテーション) を付与してください。
- ③ GRACE値.....リトライ回数に達するまでの制限時間を指定します。
再起動が不要な場合は、0 を指定してください。
- ④ リトライ回数.....GRACE 値内に実行するプロセス/サービスの最大実行回数を指定します。
再実行が不要な場合は、0 を指定してください。
- ⑤ リトライオーバーアクション.....リトライ回数に達した場合の動作を設定します。
以下の動作を指定できます。



Continue : リトライ回数に達したプロセスを監視対象からはずし、他のプロセスの監視は継続
Exit : クラスタ環境の設定により、サーバ切り替えにつながる終了処理
Shutdown : Pcheck.exe を終了

PENT・・・プロセス単位の管理情報を規定する個別部情報

- ⑥ チェックタイプ.....監視対象の種類を設定します。
以下の種類を指定できます。
チェックタイプが実際に監視する対象と異なる場合は、正しく監視を行うことができませんので、監視する対象と一致する種類を選択してください。



Process : プロセス
Service : Windows サービス

- ⑦ オプション.....監視対象プロセス/サービスを特定するためのキーを指定します。
※本パラメータは省略可能です。
以下のパラメータのいずれかを設定してください。

IncludeStrings=xxx : 検索条件
MinProcCount=xxx : 起動するプロセスの下限数
MaxProcCount=xxx : 起動するプロセスの上限数
RestartTimeOut=xxx : 再起動スクリプト実行の監視時間
GroupTag=xxx : グループ名
RestartWaitTime=xxx : プロセス再起動の待ち合わせ時間
PnameFullMatch=xxx : 監視対象プロセスの引数の識別方式
ClearCmd=xxx : リトライオーバ時に実行するバッチファイル名

※オプションの詳細や、どのような監視を行いたい場合に、どのオプションを設定すれば有効であるかなどは、次ページ以降の「(2) オプションパラメータ」を参照してください。

(2) オプションパラメータ

オプションパラメータを指定することで、対象プロセス/サービスを特定するためのキーを指定することができます。

オプション情報を「; (セミコロン)」で区切ることで複数のオプションを指定することができます。

※オプションパラメータは省略可能です。

● 同一名プロセスを特定する場合に有効なオプション

IncludeStrings=xxxxxx には監視プロセスの検索条件となる文字列を指定します。
; (セミコロン) を含んだ文字列および、&| (アンパサンドとパイプ)の
並びを含んだ文字列を指定することはできません。
指定は値は、1024 バイト以下で設定してください。

例 : `calc.exe,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥sample_restart_calc.bat",
86400,3,Continue,Process;IncludeStrings=sample_test`

MinProcCount=xxxxxx には同一名プロセスの監視を行う場合で、起動するプロセス数で
監視する場合に、起動するプロセス数を指定します。
指定値は、1 個 ~ 64 個の範囲です。
監視対象プロセスの起動数が、指定数を下回った場合にプロセス個数異
常を検知します。

例 : `calc.exe, C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥sample_restart_calc.bat",
86400,3,Continue,Process;MinProcCount=3`

MaxProcCount=xxxxxx には同一名プロセスの監視を行う場合で、起動するプロセス数で
監視する場合に、起動するプロセス数を指定します。
指定値は、1 個 ~ 64 個の範囲です。
監視対象プロセスの起動数が、指定数を上回った場合にプロセス個数異
常を検知します。
MaxProcCountにはMinProcCount以上の値を指定してください。

例 : `calc.exe, C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥sample_restart_calc.bat",
86400,3,Continue,Process;MaxProcCount=3`

● プロセス/サービスをグルーピングして監視する場合に有効なオプション

GroupTag=xxx ...xxx にはグループ監視を行う場合のグループ名を指定します。
グループ名は、256 バイト以下で設定してください。
数字のみのグループ名は設定することができません。英字のみ、または英数字を組み合わせた方式で指定してください。
同一グループの監視対象プロセス/サービスについては、同一の再起動スクリプトを指定してください。

注) グループ監視の詳細については、ユーザズガイド（機能編）を参照してください。

例 :

```
Spooler,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥sample_restart_Spooler.bat",  
86400,3,Continue,Service;GroupTag=sample_group  
Spooler,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥sample_restart_Spooler.bat",  
86400,3,Continue,Service;GroupTag=sample_group
```

● 再起動スクリプトの処理が長時間終了しない場合に有効なオプション

RestartTimeOut=xxxxxx には、監視対象プロセスごとに再起動スクリプトの実行を監視する時間を設定します。

指定は 1 ~ 86400 秒 (24 時間) の範囲です。

再起動スクリプトがプロセスの再起動に失敗し、指定された時間を経過しても再起動が終了しない場合に再起動スクリプトを停止します。

注) MonitorInterval の整数倍の値を設定してください。

例 : Spooler,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥sample_restart_Spooler.bat",
86400,3,Continue,Service;RestartTimeOut=60

● 監視対象プロセスの再起動の準備および再起動に時間がかかるような場合に有効なオプション

RestartWaitTime=xxxxxx には監視対象プロセスごとに、プロセスの再起動の待ち合わせ時間を設定します。

指定値は 1 秒 ~ 86400 秒 (24 時間) の範囲です。

再起動スクリプトがプロセスの再起動に失敗した場合にプロセス監視の再開を待ち合わせます。

注) MonitorInterval の整数倍の値を設定してください。

例 : Spooler,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥sample_restart_Spooler.bat",
86400,3,Continue,Service;RestartWaitTime=300

● その他のオプション

PnameFullMatch=xxxxxx には監視対象プロセスの引数にて識別する方式を設定します。
以下の種類を指定できます。



- disable : Process/ServiceName で指定した引数の文字列と前方一致で一致するプロセスを監視対象プロセスと特定。
- enable : Process/ServiceName で指定した引数の文字列と完全一致するプロセスを監視対象プロセスと特定。

例 : `calc.exe,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥sample_restart_calc.bat",86400,3,Continue,Process;PnameFullMatch=disable`

ClearCmd=xxxxxx にはリトライオーバ時に実行するバッチファイル名を指定します。
ファイル名は絶対パスにて 256 バイト以下で設定してください。
引数を指定する場合は、全体で 1024 バイト以下で設定してください。
名前にスペースがあるフォルダに存在するファイルを指定する場合は、始点と終点に " (ダブルクォーテーション) を付与してください。
引数を指定する場合、ファイル名と引数の間に &| (アンパサンドとパイプ) を付与してください。
ファイル名に ; (セミコロン) を含んだ文字列および、&| (アンパサンドとパイプ) の並びを含んだ文字列を指定することはできません。

例 : `calc.exe,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥sample_restart_calc.bat",86400,3,Continue,Process;ClearCmd="C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥sample_restart_calc.bat"`

3 再起動スクリプトの記述方法

再起動スクリプトは、Pcheck.exe がプロセス/サービスの消滅を検出した場合に、プロセス/サービスを再開するための手続きを記述したファイルです。監視対象プロセス/サービス再起動のために必要な処理を記述してください。フォーマットは通常のバッチファイルです。

基本的な記述方式は以下となります。

- ① 再起動スクリプトには、プロセス/サービス停止に伴う後処理を記述します。ここでは Stop を指定します。念のため、後処理が完了するまで PSSleep.exe によって待ち合わせます。
- ② 再起動スクリプトには、プロセス/サービス起動の前処理と、実際の起動処理を記述します。ここでは Start を指定します。念のため、開始処理が完了するまで PSSleep.exe によって待ち合わせます。
- ③ exit 0 を記述します (ProcessSaver は再起動スクリプトの戻り値によって正常に再起動できたかどうかを判断しているため、必ず exit 0 で終了します)。

再起動スクリプト

(例) プロセス (OracleDBConsole) の場合

```
@echo off

REM OracleDBConsole の起動スクリプトです。

sc stop OracleDBConsoleoracl
"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver
    ¥bin¥PSSleep.exe" 30 →①

cd C:¥WINDOWS¥system32
wmic process where "name=¥"java.exe¥"
    and cmdline=¥"【引数】¥"" delete

sc start OracleDBConsoleorcl
"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver
    ¥bin¥PSSleep.exe" 30 →②

exit 0 →③
```

【引数】の取得方法についてはテンプレートガイドを参照してください。

4 Pcheckの起動・終了

- (1) ProcessSaver コンソール (GUI) からの起動
- (2) PcheckRunList からの起動
- (3) コマンドラインからの起動

(1) ProcessSaver コンソール (GUI) からの起動

ProcessSaver コンソール (GUI) からの ProcessSaver 起動、終了手順は以下の通りです。

● ProcessSaver コンソール画面起動

スタートメニューから [すべてのプログラム (P)] → [HA] → [ProcessSaver] → [ProcessSaver Console] を選択し、ProcessSaver コンソール画面を起動します。

● 起動

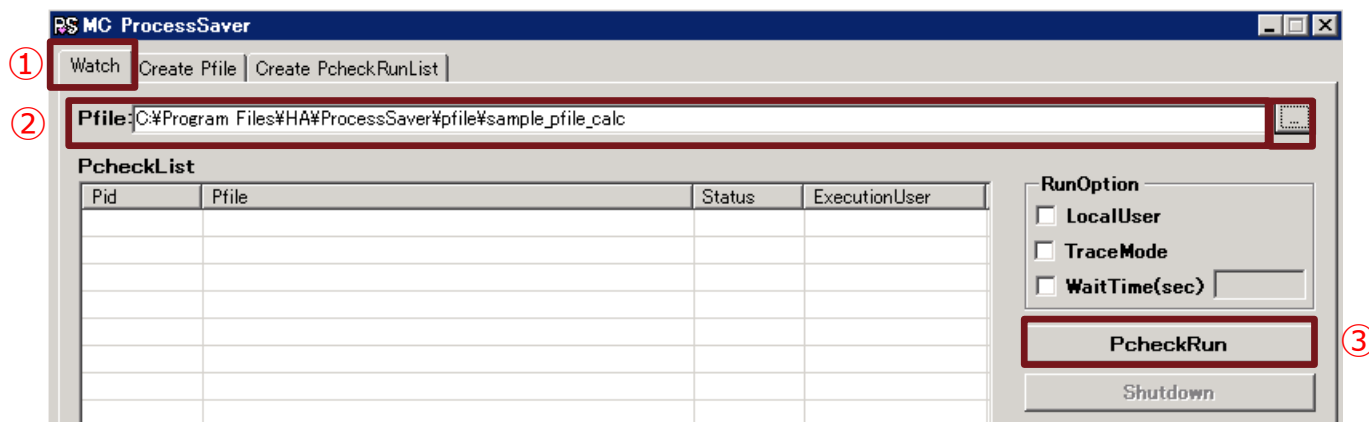
① [Watch] タブを選択してください。

② 直接 Pfile を入力するか、Pfile 選択を押して監視する Pfile を選択してください。
注) Pfile 名には絶対パスを指定してください。

③ Pcheck Run を押してください。

※オプションを指定して起動する場合は、それぞれのオプションにチェックを付けてください。

注) ProcessSaver コンソール (GUI) からの起動の詳細については、ユーザズガイド (コンソール編) を参照してください。

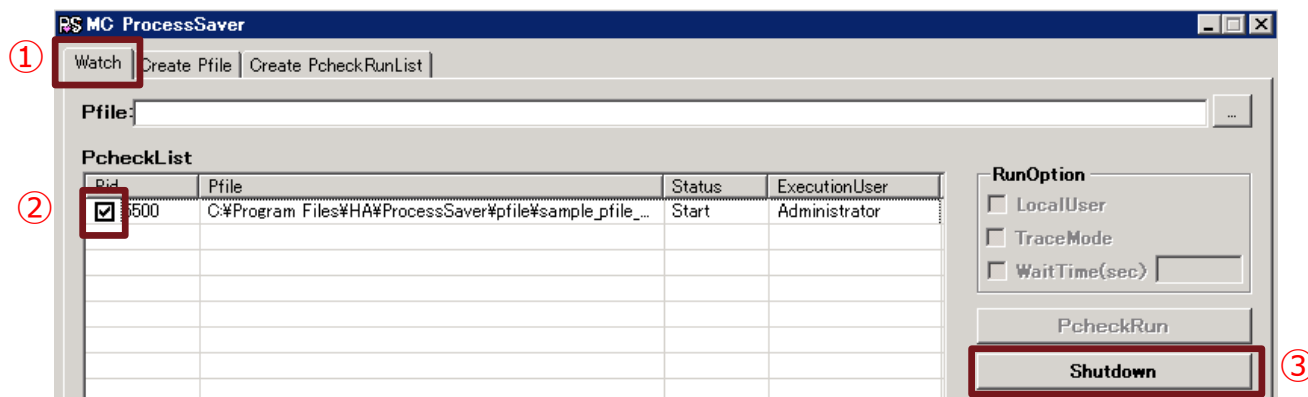


ProcessSaver コンソール (GUI) からの ProcessSaver 終了手順は以下の通りです。

● 終了

- ① [Watch] タブを選択してください。
- ② PcheckList から、終了したい Pcheck のチェックボックスにチェックを入れます。
- ③ Shutdown を押してください。

注) ProcessSaver コンソール (GUI) からの終了の詳細については、ユーザーズガイド (コンソール編) を参照してください。



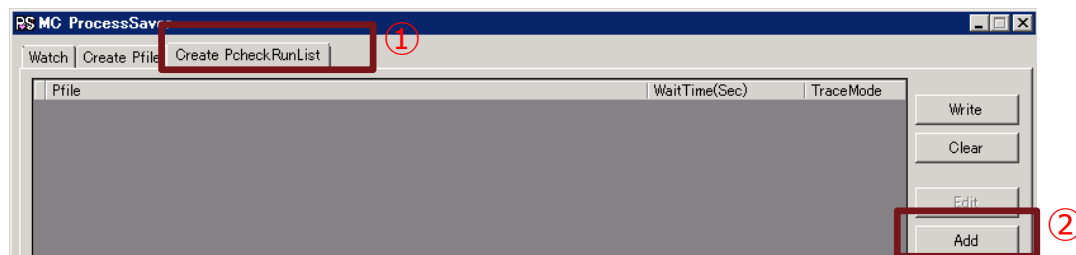
(2) PcheckRunList からの起動

PcheckRunList からの ProcessSaver 起動手順は以下の通りです。

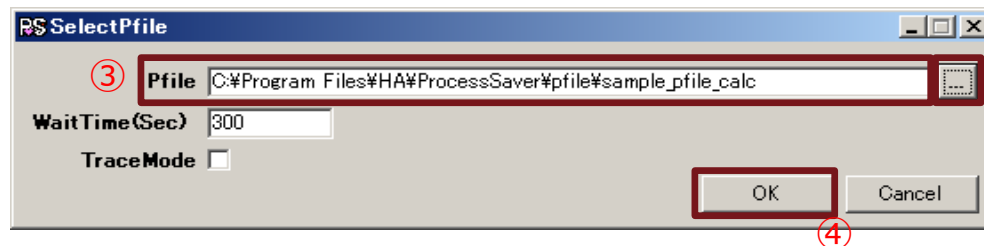
※PcheckRunList は、OS 起動時に自動的に監視を開始するための Pcheck の起動リストです。

● 起動

- ① [Create PcheckRunList] タブを選択してください。
- ② Add を押して『SelectPfile』を表示してください。



- ③ 直接 Pfile を入力するか、Pfile 選択を押して監視する Pfile を選択してください。
注) Pfile 名には絶対パスを指定してください。
- ④ OK を押してください。
※オプションを指定して起動する場合は、それぞれのオプションにチェックを付けてください。
注) ProcessSaver コンソール (GUI) からの起動の詳細については、ユーザズガイド (コンソール編) を参照してください。



(3) コマンドラインからの起動

コマンドラインからの ProcessSaver 起動、終了手順は以下の通りです。

注) 下記コマンドの Pfile 名には絶対パスを指定してください。

● 起動

コマンドのフォーマット: `Pcheck.exe -f PfileName [-w WaitTime(sec)] [-t]`

例: `>Pcheck.exe -f "C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥pfile¥sample_pfile_calc"`



パスに空白が含まれる場合は、ファイルを " (ダブルクォーテーション) で囲ってください。

※オプションを指定して起動する場合は、それぞれのオプションを設定してください。

注) コマンドラインからの起動の詳細については、ユーザーズガイド (コマンド編) を参照してください。

● 終了

コマンドのフォーマット: `Padmin.exe -f PfileName -c Shutdown`

例: `>Padmin.exe -f "C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥pfile¥sample_pfile_calc" -c shutdown`



パスに空白が含まれる場合は、ファイルを " (ダブルクォーテーション) で囲ってください。

注) コマンドラインからの終了の詳細については、ユーザーズガイド (コマンド編) を参照してください。

- (1) 監視の一時停止・再開コマンド
- (2) 監視状態の表示コマンド
 - － 監視コマンドの一覧表示
 - － 監視ルール表示
 - － 監視状態表示
- (3) 運用中に出力されるメッセージ
- (4) リトライオーバー時の対処
- (5) オンライン保守手順

(1) 監視の一時停止・再開コマンド

- プロセス監視の停止コマンド

コマンドのフォーマット: `>Padmin.exe -f <Pfile> -c Stop`

例: `>Padmin.exe -f "C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥pfile¥sample_pfile_calc" -c Stop`

※パスに空白が含まれる場合は、ファイルを " (ダブルクォーテーション) で囲んでください。

- Pfileの再読み込みコマンド

コマンドのフォーマット: `>Padmin.exe -f <Pfile> -c Reload`

例: `>Padmin.exe -f "C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥pfile¥sample_pfile_calc" -c Reload`

※パスに空白が含まれる場合は、ファイルを " (ダブルクォーテーション) で囲んでください。

- 停止中のプロセス監視の再開コマンド

コマンドのフォーマット: `>Padmin.exe -f <Pfile> -c Start`

例: `>Padmin.exe -f "C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥pfile¥sample_pfile_calc" -c Start`

※パスに空白が含まれる場合は、ファイルを " (ダブルクォーテーション) で囲んでください。

(2) 監視状態の表示コマンド

– 監視コマンドの一覧表示

```
>Padmin.exe -l
```

```
>Padmin.exe -l
Mypid      = 6112
Myname     = Pcheck.exe
Pfile      = C:¥Program Files¥Ha¥ProcessSaver¥pfile¥sample_pfile_calc
Message    = Start
ExecutionUser = Administrator
```

- Mypid.....Pcheck のプロセス ID
- Myname.....実行中のコマンド名
- Pfile.....監視対象の Pfile 名
- Message.....処理中のメッセージ (イベント)
- ExecutionUser.....起動ユーザー



Message の種類

- Start プロセス監視の実行
- Restart プロセス監視の再開中
- Stop プロセス監視の停止
- Change 動作パラメータを変更中
- Reload Pfile 再読み込み中
- Shutdown ... プロセス監視の終了
- PentOperation ... Pent 単位の操作を
Pcheck が受け付けている
状態
- Unknown ... プロセス対象の状態が不明

– 監視ルール表示

```
Padmin.exe -f <Pfile> -c Show param
```

- Pfile
....監視対象 Pfile 名
- MessageBox
....処理中のイベントを表すメッセージ
- MsgCheckInterval
....処理中のメッセージを確認する間隔
- MonitorInterval
....監視間隔
- MonitorTryCount
....監視間隔中に処理中のメッセージを確認する回数
- DumpFileName
....DumpFile 名
- ExecutionUser
....起動ユーザー
- UpMessageReduceMode
....Pcheck 起動時の
サマリ情報出力動作

```
>Padmin.exe -f "C:¥Program Files¥ProcessSaver  
¥pfile¥sample_pfile_calc" -c Show param
```

```
Pfile = C:¥Program Files¥HA  
¥ProcessSaver¥pfile  
¥sample_pfile_calc  
MessageBox = Start  
MsgCheckInterval = 5  
MonitorInterval = 10  
MonitorTryCount = 2  
DumpFileName = "C:¥Program Files¥HA  
¥ProcessSaver¥log  
¥Restart_Sample.bat"  
ExecutionUser = Administrator  
UpMessageReduceMode = disabel
```

```
disable : Pcheck 起動時にサマリ情報を出力しない。  
enable : Pcheck 起動時監サマリ情報を出力する。
```

– 監視状態表示

```
Padmin.exe -f <Pfile> -c Show pent
```

- Pname.....監視対象のプロセス名
- Pid/Status.....監視対象プロセスID
- RetryCountMax....再起動最大実行回数
- RetryCount.....プロセスを再起動した回数
- RestartCount.....プロセスを再起動した累計
- Grace.....制限時間
- ProcStatus.....プロセスの監視状態
- RetryOverAction....リトライオーバーとなった場合の処理
- RestartTime.....再起動した日時
- PentId.....Pfile の PENT 部分に指定したプロセスの通番
- MonitorStatus.....PENT 単位の監視状態

```
>Padmin.exe -f "C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver
¥pfile¥sample_pfile_calc" -c Show pent
Pname                = calc.exe
Pid/Status            = 5392
RetryCountMax         = 3
RetryCount            = 0
RestartCount          = 0
Grace                 = 86400
ProcStatus            = Avail
RetryOverAction       = Continue
RestartTime           = -----
PentId                = 1
MonitorStatus         = ON
```


(3) 運用中に出力されるメッセージ

プロセスの消滅を検知すると、イベントログに以下のようなメッセージが出力されますので、障害の原因を解析願います。

- プロセスの消滅を検知したメッセージ 監視対象プロセス ({xxx}, pid={xxx}) の消滅を検知しました。

PS02W036 : 監視対象プロセス (calc.exe, pid=932) の消滅を検知しました。

- プロセスの再起動を開始したメッセージ 監視対象プロセスを再起動します。 ({xxx})

PS07W006 : 監視対象プロセスを再起動します。 (calc.exe)(pid:6112)

プロセスの消滅を検知すると、Pfile に指定された再起動スクリプト等を実行しプロセスの再起動を開始します。

- プロセスの監視を開始したメッセージ 監視対象プロセス ({xxx} Pid: {xxx}) は稼働状態です。

PS02I037 : 監視対象プロセス (calc.exe Pid:4696) は稼働状態です。 (Pid:5548)

プロセスが起動していることを確認した後、Pcheck.exe によってプロセス監視を開始します。
※Pfile に再起動スクリプトなどを指定していない場合、プロセスの再起動は行われません。

- プロセスが動作していないことを検知したメッセージ PID 取得に失敗しました。 ({xxx})

PS02E054 : PID 取得に失敗しました。 (calc.exe)(Pid:5548)

- リトライオーバを検知したメッセージ ({xxx}) RETRYOVER: <リトライオーバアクション>.(Pid:xxx)

PS07E002 : (calc.exe) RETRYOVER:CONTINUE.(Pid:5548)

(4) リトライオーバー時の対処

Pcheck が、対象プロセスの再起動に Pfile で指定されたリトライ回数失敗するとリトライオーバーとなり監視を停止します。プロセス監視の再開は以下の手順で行います。

- Pfile に指定したリトライオーバーアクションが Continue の場合は Pcheck は起動状態で監視を停止していますので、以下のコマンドによりプロセス監視を再開することができます。

```
>Padmin.exe -f <Pfile> -c Reload
```

例 :

```
>Padmin.exe -f "C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥pfile¥sample_pfile_calc" -c Reload
```

※パスに空白が含まれる場合は、ファイルを " (ダブルクォーテーション) で囲んでください。

- リトライオーバーアクションが Shutdown または Exit の場合は、Pcheck が消滅していますので、Pcheck コマンドによりプロセス監視を再開して下さい。

```
>Pcheck.exe -f <Pfile>
```

例 :

```
>Pcheck.exe -f "C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥pfile¥sample_pfile_calc"
```

※パスに空白が含まれる場合は、ファイルを " (ダブルクォーテーション) で囲んでください。

(5) オンライン保守手順

監視対象プロセスの停止、再起動は以下の手順で行います。

① プロセス監視の一時停止

コマンドのフォーマット： `>Padmin.exe -f <Pfile> -c stop`

例： `>Padmin.exe -f "C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥pfile¥sample_pfile_calc" -c Stop`

※パスに空白が含まれる場合は、ファイルを "（ダブルクォーテーション）で囲んでください。

② 対象プロセスを停止、再起動

実行形式の変更によるプロセスの再起動などのメンテナンス作業を行うことが可能です。

③ Pfile の再読み込み（初期化）

コマンドのフォーマット： `>Padmin.exe -f <Pfile> -c Reload`

例： `>Padmin.exe -f "C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥pfile¥sample_pfile_calc" -c Reload`

※パスに空白が含まれる場合は、ファイルを "（ダブルクォーテーション）で囲んでください。



ProcessSaver は対象プロセスの PID によって監視を行っているため、保守によって再起動を行う場合は、Pfile の再読み込みを行わなければなりません。

(続き)

④ プロセス監視の再開

コマンドのフォーマット：`>Padmin.exe -f <Pfile> -c Start`

例：`>Padmin.exe -f "C:\Program Files\HA\ProcessSaver\pfile\sample_pfile_calc" -c Start`

※パスに空白が含まれる場合は、ファイルを"（ダブルクォーテーション）で囲んでください。

★ 手順③、④の代わりに以下のコマンドによっても、プロセス監視の再開が行えます。

コマンドのフォーマット：`>Padmin.exe -f <Pfile> -c Restart`

例：`>Padmin.exe -f "C:\Program Files\HA\ProcessSaver\pfile\sample_pfile_calc" -c Restart`

※パスに空白が含まれる場合は、ファイルを"（ダブルクォーテーション）で囲んでください。

※ Pfile を変更した場合には、Reload を使用して Pfile の再読み込みが必要となります。



[付録]パラメータ設定シート (例)

以下のパラメータシートによって、Pfile のパラメータを容易に設定することができます。
 ※現在記入している値は例です。未記入のシートをプリントアウトしてご利用ください。

プロセス監視 Pfile 設定項目						
Pfile 名	C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥pfile¥sample_pfile_spooler					
運用形態	Pcheck 起動					
PARAM 部						
項目	パラメータ名	設定値				備考
メッセージチェックインターバル	MsgCheckInterval	5				内部イベントチェック間隔(秒)
モニタインターバル	MonitorInterval	10				プロセス監視間隔(秒)
共有メモリダンプファイル	DumpFileName	"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥log¥sample_pfile_spooler.dmp"				共有メモリイメージ出力ファイル
PENT 部						
監視対象プロセス / サービス名	再起動スクリプト名	グレース値	リトライ回数	リトライオーバーアクション	チェックタイプ	備考
Spooler	"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥sample_restart_Spooler.bat"	86400	3	Continue	Service	

パラメータ設定シート

プロセス監視 Pfile 設定項目						
Pfile 名						
運用形態						
PARAM 部						
項目	パラメータ名	設定値				備考
メッセージチェックインターバル	MsgCheckInterval					内部イベントチェック間隔(秒)
モニタインターバル	MonitorInterval					プロセス監視間隔(秒)
共有メモリダンプファイル	DumpFileName					共有メモリイメージ出力ファイル
PENT 部						
監視対象プロセス /サービス名	再起動スクリプト名	グレース値	リトライ 回数	リトライオーバ アクション	チェック タイプ	備考

 **Orchestrating** a brighter world

NEC